

## 第3次大分市文化・芸術振興計画 第1回策定委員会概要

項目	内容
開催日時	令和6年5月30日（木）14：00～＜委嘱状交付式＞ 令和6年5月30日（木）14：05～＜第1回策定委員会＞
会場	議会棟4階 全員協議会室
出席者	伊藤委員、尾野委員、椎葉委員、塩川委員、高木委員、泊委員、根之木委員、野村委員、三浦委員、村上委員、弓場委員、永田企画部長、高田教育部長
次第	1 策定委員自己紹介 2 事務局紹介 3 委員長・副委員長の選出 4 委員長あいさつ  5 議事 (1) 会議の公開・非公開の取扱いについて (2) 策定スケジュールについて (3) 第2次計画の概要及び取組状況について (4) 第3次計画策定について 6 その他

### 【概要】

#### 委嘱状交付式

##### 1. 委嘱状交付

##### 2. 清水副市長あいさつ

▽大変お忙しい中、委員をお引き受けいただき、心から感謝を申し上げます。

▽市長は「人が真ん中」を基本姿勢にした行政・まちづくりを掲げております。それは、市民ひとりひとりが幸せであること、つまり精神的にも非常に充実した生活を送れることを目指しているのだと考えている。

▽そのためにも、市民が身近な場所で気軽に多彩な文化・芸術に触れる環境づくりを進め、多彩な文化芸術が生まれ、それにより観光や産業振興、まちづくりを華やかに彩っていただけたらと考えている。

▽刻々と社会が変わる中で、本市における5年後のあるべき姿を皆様にご検討いただき、皆様のこれまでのさまざまな経験から忌憚のないご意見または活発なご議論を頂戴したいと考えている。

## 第1回策定委員会

### 開 会

#### 1. 策定委員自己紹介

#### 2. 事務局紹介

#### 3. 委員長・副委員長の選出

■委員長⇒根之木 英二 別府大学特任教授

■副委員長⇒三浦 宏樹 (公財)大分県芸術文化スポーツ振興財団アドバイザー  
にそれぞれ決定

#### 4. 委員長あいさつ

▽当策定委員会は、大分市の文化・芸術を活かしたまちづくりを進める上での指針となる「第3次大分市文化・芸術振興計画」の策定に関し、広く市民の意見を聴くために設置されております。

▽文化・芸術というものは大変裾野が広いものですが、皆様のこれまでの経験やお立場からご意見を伺い、より実効性のある計画として参りたいと考えております。

#### 5. 議事

##### 議事1

会議の公開・非公開の取扱いについて

■原則公開に決定

■会議の内容に応じ、部分的に非公開とする場合等にはその都度、委員会の中で判断する。

##### 議事2

策定スケジュールについて

■事務局より説明

(1) 今年度中に4回の策定委員会と3回の大分市文化・芸術まちづくり庁内検討会議を実施

(2) 11月～12月にパブリックコメントの実施

(3) 3月に計画の最終案の市長報告の後、第3次計画策定

(4) 各回の策定委員会での協議事項の提示

■質疑応答(無し)

### 議事 3

#### 第2次計画の概要及び取組状況について

##### ■事務局より説明

- (1) 第2次計画の計画期間、位置づけ、計画の対象とする文化・芸術の範囲
- (2) 基本理念、3つの基本目標、重点プロジェクト、主な施策・事業について
- (3) 特別プロジェクトおよびその他評価指標について

##### ■質疑応答

委員	「(仮称) POART まちなか芸術祭」とは、新規事業だと思うが、どのような内容を想定しているか。
事務局	本年度実施予定のアーティストバンク POART を活用した事業であり、荷揚複合公共施設をメイン会場とし、まちなかの POART 登録スポット各所にて、POART 登録アーティストの作品展示、ワークショップ、コンサートなど、多種多様なジャンルの演出を盛り込んだイベントを実施予定である。また、各イベントへの参加を促進することで、まちなかの回遊性にも繋げていきたいと考えている。
委員	商工労働観光部の事業の“回遊劇場”との役割分担や連携して相乗効果を狙ったりするなど、考えているのか。
事務局	令和7年度実施予定の「まちなかアートフェスタ」との連携について今後検討を重ねていきたいと考えております。
委員	能楽堂はなかなか一般の方がお入りになる機会がないと思うが、子供たちが日本の文化に触れることは、大変重要なことであると思う。能楽堂は、世界的なピアニストも「日本は本当に素晴らしい文化を持っている」ということを再認識した場所でもある。非常に有意義な能楽堂を、西洋音楽や他のジャンルでも使用されているアイデアが、非常に素晴らしい結果を生んでいると思う。 また、荷揚複合公共施設ではクラシック音楽イベントを実施させていただき、非常に素晴らしい会場だったと聞いている。市民の方々が非常に身近に感じているところで、多種多様な芸術が身近にあるということ、それに触れられることというのが、非常に素晴らしいので、より一層活用していただきたい。
委員	地域はアートの入口さえあれば、アートに興味・関心を

	<p>持って参加してくれる。また、地域で活動するアーティストも地域とつながりを持つようなアートに関心をもつ方が多くいる。POART も、アーティストや場所も大事だが、この間に入ってマネジメントとかキュレーションをする人材の必要性を痛感したので、「中間人材」について次の計画に期待したい。</p> <p>また、これから活躍が期待される若手のアーティストをうまく認識しないといけない。若手や中堅のアーティストがスポットを浴びることができず、市外に出て行く可能性があるので、助成金を出すだけでなく、大分市の広告等で起用するなど、継続性を持ったサポートが出来るようになると思う。</p>
委員	<p>文化施設をコロナ禍で、どう盛り上げていけばいいのかについてすごく悩んだときに、まちなかにある施設同士で連携をあまりできておらず、個々の施設で頑張っていることが多いことに気づいた。本当の意味で、施設間の連携を行って盛り上げていかないと、利用者の市民を変えることはできないと実感した。</p>
委員	<p>国民文化祭までは各施設ともに熱が上がっていたが、それ以降、熱が冷めてきている。その間にコロナ禍もあったが、もう一回盛り上げるようにしていきたい。</p> <p>アーティストバンクの普及・活用での、指標がアーティストとスポットの登録件数となっているが、目的はマッチングのため、実績はマッチングした件数を出していけるとよいと感じた。</p>
事務局	<p>POART の活用については、今年の1月から稼働して、登録者数は順調に伸びているが、今後どのようにマッチングしていくか、さらにどのようなものを生み出していくかについては、課題であり、検討が必要だと感じている。</p>
委員	<p>(仮称) POART まちなか芸術祭を行う場合、例えば今後コンパルホールやアートプラザなどの会場での実施や、連携するなど考えられるか。</p>
事務局	<p>今年の POART まちなか芸術祭は、メイン会場を荷揚複合公共施設で実施して、それ以外の会場について現在、未定だが、来年度以降に向けて、回遊性の部分を含めてどのよう</p>

	に連携して進めていけるか検討していきたいと思う。
委員	<p>県の中学校文化連盟の活動として、中学生の夏休みに芸術教室も行っており、アーティストの選定で毎年困っていたが、今年度は POART からご紹介いただきありがたいと思った。</p> <p>学校では、教員の数の関係もあり、授業でできる活動は限りがあるが、学校では美術部の生徒が増えている。学校ではできないような文化・芸術関係の講座があると参加希望者が多いのではと感じた。</p> <p>以前、まちなかの商店街で吹奏楽の演奏するイベントに参加したことがあったが、今はなかなか披露する場がないので、そういった機会を充実させていただけるとありがたい。</p>
事務局	<p>まちなかでの演奏であれば、おおいた夢色音楽祭の中で、高校や中学校吹奏楽部の演奏を今後取り入れていこうと考えている。また、どこでもコンサートでは、過去に高校の吹奏楽部に演奏いただいたこともあり、今後、若者の活用という視点から演奏機会の提供について検討を行う予定である。今年、のつはる音の森フェスティバルを9月に行う予定しており、中学生・高校生の吹奏楽部の演奏も予定している。</p>
委員	<p>POART でアーティストを選んでいただく以外にも、無料で使える場所も含め、中学生の発表の場所も調べることができるので、ぜひ演奏や発表の機会創出のため、活用していただきたい。</p>
委員	<p>以前、POART を立ち上げるという話を伺ったが、身近なところでマッチングができ、いろんな場所で表現できることや、達成率も目標値を越えていて素晴らしいと思う。少子化・コロナ禍で、前向きな明るい話が出てこない中で、工夫すればいろんなことができるという一つの実例をいただいた気がした。</p>
委員	<p>POART で登録者のいろんな情報が共有できて、今後発展しそうなイベントや、発表しやすい施設の紹介を通じて、一緒にコラボできるような企画があると面白いと思う。</p> <p>また、団体で大きなホールを予約しようとして、予約が</p>

事務局	<p>いっばいだったときに、同じ規模や条件で空いている会場が一度で検索できるようなシステムができるとありがたい。</p> <p>現在、新しい施設予約システムの稼働に向け、準備を進めており、来年の2月を目途に新システムを更新する予定である。ホール等の検索がしやすくなるので、ぜひご活用いただければと思う。</p>
委員	<p>POART からその施設予約システムにリンクを貼っていただけるとより便利になると思う。</p>
委員	<p>芸短生は短期大学なので、2年間在籍して卒業後、芸術には触れずに県外に就職して働く人がすごく多いのが現状である。一番残念なのは、たくさんの芸術を学びたい学生が集まっているのに、その2年間が短く、学外での展示や発表の機会がないまま卒業制作展で発表し、卒業して芸術に触れなくなる方がすごく多い。</p> <p>芸短生の人に学外での展示会や作品の発表の機会を提供するような取組みを、地域の文化・芸術振興計画の一つで後押ししてくれるものがあつたらいいなと思う。</p>
委員	<p>費用を負担して大きなホールを借りる人もいれば、費用面がネックで借りることができない人もいる。銀行や郵便局の一角で、絵画の展示や、街中でコンサートの実施に協力できる企業等を募集して、スペースを提供することで、これから活動を始めようとしている方の負担を少しでも減らせるのではないかと思う。</p>
委員	<p>POART のほうでも、スポット登録を待つだけでなく、いろんな企業に呼びかけを進めていると事務局から報告があつた。</p>
委員	<p>大分市が非常に積極的に地元の方々を活用しようという活動が地域に波及して行くのだと思う。大分市の取組みは、先進的な第一歩であり、文化・芸術を社会の中に取り組みでいくところが大事である。学生たちの絵を広報誌の表紙に起用するなど、いろんな連携ができるので、人材活用という面で、学生たちに期待をしている。ぜひとも1つ1つの取組みを大事にしながら継続していただきたい。</p>

委員	日頃の課題と違った、社会の中で制作することを体験し、作品を発表することが大事である。その場でしかできない作品を考えることが大事なので、ぜひ大分でたくさん学んでいただきたい。
委員	毎年秋に実施している県民芸術文化祭の申込状況を見ると、昨年が30数件だったのが、今年50数件になっており、文化・芸術活動が非常に活発になっている。3次計画を考えるにあたっては、文化・芸術活動が活発に動きつつあるということを念頭において、計画の策定を進める必要がある。
委員	大分市には、文化・芸術活動のプレーヤーは多いが、よりアート感のある人材の受入れが増えてくると、アーティストや学生と、仕事がつながるので、そういった人材育成も必要だと思う。
委員	大分市は、計画を策定するにあたり、広く人材を集め、委員会をつくり、計画の推進や策定について本気で考えてくれている。 人材は、外から借りることもできるが、育てないと市内の人材は育たない。人材がそろって、初めて文化的な土地柄になっていくと考えている。

#### 議事4

##### 第3次計画策定について

##### ■事務局より説明

- (1) 第3次計画の計画期間、位置づけ、計画の対象とする文化・芸術の範囲、計画の策定体制
- (2) 国の動向 文化芸術推進基本計画 第2期 重点取組について
- (3) 市の動向 文化・芸術に触れる機会のさらなる充実  
文化・芸術の幅広い関連分野への活用  
文化財や伝統文化の次世代への継承および地域の振興・活性化
- (4) 文化・芸術に関するアンケート調査結果

##### ■質疑応答

委員	FUNAI ジュニアガイドは、すごく良い取り組みだったので、参考にしてアートプラザでも建築キッズボランティアガイドという、子どもたちに自分が住むまちの素晴らしい建物を案内するという取り組みをしている。市の事業を見たときに、体験や学ぶことはあるが、学んだことを外に出し
----	---

事務局	<p>ていく取組みは少ないと感じた。ゆくゆくは子供たちに見学している旅行者・外国の方をご案内できるような体制をしたいと考えている。</p> <p>国の動向にある文化・芸術を担う子供たちの育成や文化観光に、そういった子どもたちの取組みというのをつなげたらいいと思う。大分市の素晴らしい建築や歴史をもっとアピールして、芸術文化を活用して大分県に来た旅行者を大分市に引っ張る仕組みがあったら良いと思う。</p> <p>現行計画に引き続き、創造都市という文化を活用して、観光・産業・教育等生かしていくという考え方が、重要であると考えている。今回のアンケートで文化を観光に生かすべきだという回答が一番高かったので、今回の第3次計画にいかしていきたいと思う。</p>
委員	<p>アンケートについて、文化・芸術を鑑賞・活動もしない理由として、時間的な余裕がないという意見が多いが、時間があれば行くわけではないと思う。第3位が文化・芸術に関心がないとなっているが最も大きな要因だと思う。多少の余暇はあるが、他の趣味を優先する割合が高く、文化・芸術のプライオリティが低いというところが非常に大きな課題である。</p> <p>国の文化芸術基本計画第2期でも、文化観光を重視しており、その中のコンテンツとして、文化芸術や食文化が非常に重視されている。文化観光は、2018年の国民文化祭で大分県が提唱したカルチャーツーリズムを、国がその後、文化観光として推進し始めたので、大分の取り組みを国が参考にしたのではと思う。この取り組みを継続・強化して行くことが重要だと感じている。</p>
委員	<p>次世代を担う子どもの育成は、当然のことだが、時間がかかるものである。子どもの親が芸術にかける時間がない・関心がないとなると、おそらく子供たちは芸術に触れる機会を失うことになる。学校と連携することがとても大事だと思う。誰一人取り残すことなくということが非常に教育の中で大事なことであり、文化・芸術を教育に結び付けることが大事だと思う。</p> <p>観光として文化を活用するのであれば、音楽祭や、食文化やアートなどのさまざまな文化が結びついて、各地がいつも賑わっているような交流が市町村間で生まれることが非常に望ましいと思う。</p>

委員	<p>次世代を担う子どもたちの育成の部分が非常に我々としては課題だと捉えている。</p> <p>FUNAI ジュニアガイドについては、大友宗麟の時代を中心に子どもたちにガイドブックを作り、それを各小学校に配布して、子どもたちに勉強してもらい、検定を実施するものである。合格者のうち約7割の子どもたちにイベント等でガイドをしてもらっている。ガイドについても非常に評判がよく、実際にガイドする子どもさんたちの自信や、大分市に対しての誇りにつながるなど、プラスの面が多量に多いと思っている。大友氏に関する取組みや大南や鶴崎など、地域の中でもそれぞれの特色のある歴史についても、広げていきたいと考えている。</p> <p>また、音楽、美術の関係も、吹奏楽部による街中での演奏等の体験を活かし、観客に見てもらいながら、子どもたちの自信につなげていきたいと思う。今後、子供たちに対していろんな刺激になり、魅力がより膨らむような取組みを推進していきたいと思う。</p>
委員	<p>市民アンケートの結果で、「市民の文化・芸術がもっと盛んになるために行うべきこと」として、6割以上の方が、「文化・芸術イベントの充実」と答えている。これまでのおおいた夢色音楽プロジェクトの事業を実施する中で、来場者数を見ると、無料であれば、ある程度の集客があるが、有料の事業になると、少し集客が乏しくなる。市民の皆さんが文化芸術に触れるために、お金を払うという意識を醸成する必要があると思う。また、お金払ってでも、市民の方々に見てもらうようなものを作り上げていく必要があると思う。</p>
委員	<p>大分市のみならず竹田市、別府市含め大分県ではアート・音楽も盛んだと思う。東アジア文化都市を体験し、ビジネスに文化・芸術が繋がり、文化・芸術に携わる団体が増えていくことが大事だと思う。文化・芸術単体だけでなく、文化・芸術×地域というのが新たな価値を作り出しているところに、大分市の凄さを感じる。</p> <p>人材を外に出さないことについて、以前大分大学教育福祉科学部の中に総合表現コースがあったが、今は無くなっ</p>

委員	<p>ている。バレエをしていた子たちは、高校を出ると、大学のために県外に出ることが多いので、なかなか県内に定着しない。そうした時に、当時、総合表現方法コースがあったときはそこに行っていたから、今そのコースが無いのがとても残念だと感じる。</p> <p>総合表現コースから、県内・全国で活躍しているアーティストを輩出しており、芸術大学とまた違った意味でもアーティストが育っていると思う。アートの新しい形を模索して挑戦することが非常に良かったと思う。</p>
----	---

## 6 その他

### ■事務局から連絡事項

(1) 第2回策定委員会の開催について

閉 会